享保仁政録

巻四

へ13
3364
14

茶儀堂

貝塚

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

門 へ 13
3364
巻 14

享保仁政諸大名

書 六 享保諸藩

享保改諸大名度

民民百姓

大正十年八月廿九日
本大學出版部

享保仁政諸藩

御用書付

大名屋敷引渡の事

年限の御猶予の事

享保元年十月十日

一 保科摂津守殿より

書付参一件 引渡の事

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の様子にて
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すまてゝ母の御ゝ
まゝ〳〵大ゝまゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

取の帯まきあげて
あをぎぐ時
あを花うあをよをたんとうとうこの所
ゆかりばかりつく取の帯まきよ
まきあへでも来まきばこ又仕様も
なくうぐきをんとうとうのんで
うとうきの川が取ひまぐも
まきあへ揚めて揚く洗色揚い

でうも切重をとうとうは
取の帯をほるうとうが
じ取重をの根ぐ洗ちう
ひぐうる揚のうとうのうとうを
ゆかりおとおりのやうく
まぐる揚後の洗重ぐうう
取のうとうきぐうを夫うう屋
あをうとうきも出ぐくうる

川くしあがきこうんぐまんぐ
どもうまの郎よりまぐ
海紙所の所がりくぶん
暮くして日の色をを
そばくあの川くと川く
押くぐぐ女ぐも一生懸命
の傷くいうちゆあ海や
ちくくが出ふすのくまくを

知まくくをぐくまくのくくる
高のもと言くまくまくいふ
夜行年ぐぐ所をあくくく時
ちくの多ま特くまくく
刺ぐぐあまぐ携帯をまく
やあぐ川くと高のくきの感が文
と郎の郎まよまぐる刺ぐを
言まくくくくしくくる世書く

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
ら毒を喰らひ四とせやうし
[illegible]
金が一万よ少あ[illegible]
[illegible]
[illegible]

の書陽にまさせおきてはた
めらるもまぐ年をよりの教日の
旨　上くに情書筆をとり中
ふるさ心地のあるを
入らるとあせられ既の命
あるを入らるのしるしなる
藏あるなこれ家間の命
をもてらるるの大事

藏家はいかなる利にぐも
家角もの藏人家
をもてらるて陽中命と中合
せらるる高まる高らされる
天下の役人ならるとあも
川の法をなりたるく
藏家をもふ者のもせよ天道
何ぐ罪をとざらんや

[illegible]

[illegible]

[illegible]